

連携センターだより

VOL. 51

R8. 2

発行：(医)如水会今村病院 連携センター

TEL 0942-87-1577

FAX 0942-87-1580



単孔式腹腔鏡手術について

外科 武末 亨

初めまして、如水会今村病院に2024年4月に赴任しました外科の武末と申します。当院外科では、消化管・肝胆膵領域の悪性疾患をはじめ、胆嚢炎、虫垂炎、鼠径ヘルニア、肛門疾患などの良性疾患まで幅広く診療を行っております。

近年、外科手術は低侵襲化が進み、腹腔鏡手術は多くの施設で標準術式として定着しています。当院においても、この2年間で消化器外科手術を約300例施行しており、その約80%を腹腔鏡下に行っています。

腹腔鏡手術は、創部が小さく身体への侵襲が少ないため、術後回復が早く、早期退院が可能となります。通常は4~5か所のポートを用いますが、単孔式腹腔鏡下手術では臍部1か所のみで手術を行うため、術後の創部が目立ちにくいという特徴があります。

当院では、虫垂炎や胆嚢炎などの良性疾患を中心に、症例を選択したうえで単孔式腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。これらの疾患は若年者や女性にも多く、整容性の面でも患者満足度の高い術式と考えています。

患者さんは手術そのものに対する不安に加え、腹部に手術痕が残ることへの心理的負担も感じています。当院では、安全性を最優先としつつ、単孔式腹腔鏡手術が適応可能な症例では、低侵襲かつ整容性に配慮した手術を心がけています。

当院では、がん診療のみならず、これら良性疾患に対しても外科が主体となって対応しております。術前評価から手術、退院後フォローまで一貫して主治医が担当し、必要に応じて先生方へ情報提供・逆紹介を行っております。他科・コメディカルスタッフと連携し、地域医療の一端を担えるよう努めてまいります。

胆嚢炎、虫垂炎などの急性腹症や、手術適応に迷われる症例がございましたら、どうぞお気軽にご相談・ご紹介ください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

